

分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)				
市町村名	安曇野市	ふりがな 箇所名	しよ (主) 塩尻鍋割穂高線	つかはら 塚原	事業年度 (完了年度は見込み)	年度~	年度	年度	年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=570m W=6.0m(9.75)m				H23年度末事業進捗率	0%				
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	0%				
	H24年度実施内容	-				用地補償費ベース	0%				
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残					
	事業費計(千円)	400,000	0	0	0	400,000					
財源内訳	国庫支出金	220,000	0	0	0	220,000					
	その他										
	県債	126,000	0	0	0	126,000					
	一般財源	54,000	0	0	0	54,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点			
	必要性 (30)	計画交通量	10,000台/日以上		1,500台以上~10,000台/日未満	1,500台未満	A	2			
		代替道路	唯一の道路である		代替となる道路がある			3			
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある		駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない		5			
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である		山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない		5			
		観光地に通じる道路		観光地に通じる道路ではない				3			
		各事業特有の必要性(安全の確保)		5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)		5.5m以上6.5m未満(幅員)		6.5m以上(幅員)	4		
				自動車と自転車・歩行者との分離を図る		歩道はあるが不十分であるものを再整備		自動車と自転車・歩行者との分離がなされていない	4		
	小計						26				
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)		県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし	B	4			
		設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ確実性が高い		環境・景観配慮がされているが確実性が低い	環境・景観配慮をしていない		2			
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている		緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪地域、過疎地域、地震防災対策強化地域、観光圏整備実施計画認定地域に位置付けられている	特別な位置づけはない		3			
	小計						9				
	効率性 (15)	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上		B/C(3便益)1.0未満(3便益以外の観点から一定の効果が得られる)	B/C(3便益)1.0未満	A	3			
		事業効果の早期発現 (H24以降残事業年数)	事業年数 5年未満		事業年数 5年~10年未満	事業年数 10年以上		5			
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		5			
		小計							13		
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる		交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	A	6			
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所又は騒音・振動箇所が緩和する		渋滞箇所又は騒音・振動箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策又は騒音・振動対策ではない		5			
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)		医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)			医療・福祉の連携に関係ない道路	5		
	小計						16				
	計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い		市町村からの要望	特に要望がない	B	5			
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知		関係者中心に周知	特に周知していない		5			
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加		住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4			
		小計							14		
	費用対効果(B/C)		1.5		評価の合計		A	78			
事業周知	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は国営アルプスあづみの公園(大町・松川地区:21年7月開園)へのアクセス道路であるとともに、松本地域と大北地域を連絡する主要ルート(通称:「山麓線」として、重要な地域交通網(観光ルートも兼ね持つ)に位置づけられている。しかし、主要な交通をスムーズに処理できる交差点形状となっておらず、公園でのイベント等の開催時には周辺の道路環境の悪化の原因となっている。									
	地域からの要望経緯	平成20年には、国営アルプスあづみの公園、安曇野市から道路整備(交差点改良)の要望が出されている。									
	事業説明等の経緯	平成22年2月24日に道路整備(交差点改良)に関する役員説明を行い、平成22年4月14日には、地域の方々と計画(案)に関する意見交換会を開催した。平成22年6月16日、平成23年2月23日、平成23年7月4日及び平成23年11月10日に計画説明会を開催した。									
	環境・景観への配慮項目	土留及び法留への緑化等を積極的に導入する。									
	他事業・プロジェクトとの関連	国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)の北入口整備(22年度着手)に伴い、穂高方面に向かって付加車線(左折レーン)の設置工事が始まる。									
特記事項	意見交換会で出された地域の要望について、安曇野市と調整を図りながら計画(案)に反映している。										
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	必要性、効率性、緊急性の評価レベルは高い。今後計画熟度を高め、事業化を検討したい。			政策評価課	意見 必要性は認められる。						